

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：特定疾患対策費

事業名 重症難病患者拠点・協力病院設備整備事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 保健医療課 難病対策係 電話番号：058-272-1111 (内3320)

E-mail: c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 47,625 千円 (前年度予算額： 50,308 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	50,308	25,148	0	0	0	0	0	0	25,160
要求額	47,625	23,809	0	0	0	0	0	0	23,816
決定額	47,625	23,809	0	0	0	0	0	0	23,816

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

重症難病患者協力病院である医療機関に対し、設備整備費の補助を行う。
特に患者の依存度の高い医療機器である、人工呼吸器等の整備に係る経費の補助を行うこと
で、重症難病患者に対し高度で適切な医療を提供する体制を維持することができる。

(2) 事業内容

人工呼吸器 24台の整備補助

- ・国庫基準額：2,452千円×購入台数
- ・補助率：2/3 (国庫1/3、県費1/3)

患者監視装置 8台の整備補助

- ・国庫基準額：1,563千円×購入台数
- ・補助率：2/3 (国庫1/3、県費1/3)

無停電電源装置 2台の整備補助

- ・国庫基準額：42千円×購入台数
- ・補助率：2/3 (国庫1/3、県費1/3)

(3) 県負担・補助率の考え方

負担区分 国1/3、県1/3、事業者1/3

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	47,625	人工呼吸器、患者監視装置等の設備整備補助
合計	47,625	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内重症難病患者拠点協力病院の適切で高度な医療を提供できる体制を維持するため、機器整備に対する補助を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

医療機器の購入に対する補助のため、指標を設定することはできない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p><取組内容（購入した機器）> 揖斐厚生病院 人工呼吸器 県立多治見病院 人工呼吸器、患者監視装置 木沢記念病院 人工呼吸器、患者監視装置 中津川市民病院 人工呼吸器 松波総合病院 人工呼吸器、患者監視装置 東濃厚生病院 人工呼吸器 高山赤十字病院 非常用電源装置 羽島市民病院 患者監視装置 県立下呂温泉病院 患者監視装置 中濃厚生病院 患者監視装置</p> <p><前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果> 重症難病患者協力病院である医療機関の設備整備に対し支援を行うことで、より安全で質の高い医療を提供することができる。</p>
令和3年度	<p><取組内容（購入した機器）> 県立多治見病院 人工呼吸器、患者監視装置 中津川市民病院 人工呼吸器、患者監視装置 松波総合病院 人工呼吸器、患者監視装置 中濃厚生病院 患者監視装置 長良医療センター 人工呼吸器、非常用発電機 岐阜ハートセンター 人工呼吸器、患者監視装置 河村病院 患者監視装置、非常用発電機</p> <p><前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果> 重症難病患者協力病院である医療機関の設備整備に対し支援を行うことで、より安全で質の高い医療を提供することができる。</p>

令和
4
年度

令和6年度当初予算にて追加

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	難病患者は高度な治療を要するため、医療機器も常に高度な医療を提供できるものを整備しておく必要があるが、医療機器は高額なため、本事業で支援をする必要性は高い。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	本事業を活用して機器整備を行うことで、難病患者に対し、高度で適切な医療を提供する体制を維持することができるため、本事業は有効である。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	県費と併せて国費でも補助を行うことにより、効率的に事業を実施できている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 全地域の重症難病患者拠点協力病院の41医療機関の医療機器整備状況や計画を確認し、必要な機器整備数を把握する必要がある。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 難病患者に対し、高度で適切な医療を提供できる体制を維持するために、今後も継続して事業を実施する。
--